

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区茶屋町10番2号 茶屋町西再開発ビル（NU茶屋町）	氏名	茶屋町西再開発ビル区分所有者集会 会長 福井 康樹
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		区分所有者集会として、ビルの管理、運営 地下2階 地上9階 主に物販（地下1階一部飲食店・地上8・9階飲食店）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	3,013 t-CO <sub>2</sub>	2,941 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,136 t-CO <sub>2</sub>	3,020 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	2.1 %	2.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.8 %	3.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>基準年度平成26年度から昨年同様、夏季に於ける冷熱源機器の運転パターンの見直しを行いました。電動ターボ冷凍機を有効利用することによりガス吸収式冷温水発生機の稼働時間の調整を実施しました。結果、基準年度から2.4%の温室効果ガス削減が達成されました。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当ビルの管理運営を委託しております、阪急阪神ビルマネジメント(株)は阪急阪神ホールディングス(株)の推進体制を主体としています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	レ					
1	レ	GHG排出	茶屋町西再開発ビル	コード(1113) 照明点灯時間の見直し	共用部を中心に点灯時間の短縮、不要箇所 の完全消灯の実施。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	茶屋町西再開発ビル	コード(1218) 照明設備のLED化	前回計画からの照明設備のLED化を継 続し、店舗へもLED変更を推奨してい く。3ヶ年中に水銀ランプをLED対応 へ変更することを目標とする。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	茶屋町西再開発ビル	コード(1114) 室外機フィン洗淨	室外機、内機のコイルフィン洗淨を定期 的に行い、排熱効率を良くして使用電力 量を減らす。テナント所有分においても 同様に推奨していく。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	レ					
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府貝塚市港16-1	氏名	チヨダウーテ株式会社 工場長 清水 秀幸
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		石膏ボード製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	6,372 t-CO <sub>2</sub>	6,703 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,866 t-CO <sub>2</sub>	7,229 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	1.8 %	-5.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.5 %	-5.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>昨年に引き続きボイラーの定期点検及び燃焼室の掃除、蒸気コンプレッサーの安定稼働を行うことで温室効果ガスの排出量の抑制を図ることが出来た。 また、受変電設備の更新及び集約を行い温室効果ガスの排出量の抑制を図ることが出来た。(平成28年5月完了) 結果として平成28年度は、生産量の増加に伴い電気及び都市ガス使用量が増え温室効果ガスの排出量が5.2%増えてしまった。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

平成29年度に倉庫内の既設照明設備をLEDに更新予定。  
また、ボイラーの定期点検・燃焼室の掃除を行うとともに、蒸気コンプレッサーの安定稼働を行い温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制を図る。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	貝塚工場	コード(1125) 乾燥工程のエネルギー改善	乾燥工程(ドライヤー)の熱風漏れヶ所の修繕・改造を行い、エネルギー効率の改善を図る。 ⇒H28年度実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	貝塚工場	コード(1223) 蒸気コンプレッサーの安定稼働	蒸気コンプレッサーの安定稼働を図り、エア供給設備の動力削減を行う。 ⇒H28年度メンテナンス実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	貝塚工場	コード(1114) ボイラーの保守・点検	通年で1ヶ月毎にボイラーの保守・点検を行うと共に、燃焼室の掃除を実施し燃焼効率を維持する。 ⇒H28年度実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	貝塚工場	コード(1218) 照明設備をLED化	工場内の照明設備は半数以上水銀灯が残っている為、LEDに更新し省エネを図る。 ⇒H28年度未実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	貝塚工場	コード(1215) 高圧受変電設備の更新	高圧受変電設備の更新を行い、エネルギー効率の改善を図る。 (平成26年より実施しており、平成27年の第3期工事で完了予定。) ⇒H28年度実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	貝塚工場	コード(1218) 照明設備の点灯時間削減	工場内の照明のLED化に伴い、屋根に明り取り及びセンサーを取付けることにより、照明の点灯時間を削減し、省エネを図る。 ⇒H28年度未実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	貝塚工場	コード(2123) 社内使用車のエコドライブ推進。	無駄なアイドリングや急発進をしない等を心掛け、エコドライブに努める。 ⇒H28年度実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	貝塚工場	コード(2121) 社用車の更新	社用車を燃費の良い車種に更新し、CO2の削減を図る。 ⇒H28年度実施。	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策
